

溝口 朋実(熊本大学卒)

医師を目指した理由

私が医師を目指し始めたのは中学生の頃です。うつ病を患っていた友人の力になることができず、少しでも役に立てる職に就きたいと思ったのがきっかけでした。医学部に入学してからの6年間では、身体と心の病気について、また様々な医師のあり方について学び、自分の目指す医師像も徐々に明確になっていきました。

どんな医師になりたいか

個々の病気に焦点をあてるのではなく、病院に来られた方自身を診て、社会的背景を踏まえた上でどういった対応が必要か、本当の問題はどこにあるのかを見極められる医師になりたいと思います。働いていく中で目指す医師像は変わるかもしれませんが、人を相手にしていること忘れず、人に寄り添える医師となれるよう心がけていきたいです。



福嶋 勝大(順天堂大学卒)

医師を目指した理由

私は9歳のときに、単純性骨嚢腫という腫瘍類似疾患で東北大学病院に入院し、ある1人の医師に出会いました。小学生の私には病気についての知識がなく、入院も手術も不安であり、恐怖でした。その医師は私にも理解できるように病気のこと、手術のこと、術後のケアのことを私の目線に立って教えてくれました。それを機に私は医師を目指しました。

どんな医師になりたいか

患者さんの年齢・背景に関わらず患者さんの立場に寄り添った診療のできる医師になりたいと考えています。

医師を目指す皆さんへメッセージ
目標に向かって頑張ってください！



白鳥 秋菜(岩手医科大学卒)

医師を目指した理由

父が医師として地域医療へ貢献している姿を幼い頃から見ており、医師という職業に対する憧れは強かったのですが、医師を目指した大きなきっかけは東日本大震災です。困難な環境の中、被災地で人々のために医療に従事する医師の姿を通して、私も地域の人に救いの手を差し伸べることができる存在になりたい、と思うようになりました。

どんな医師になりたいか

患者さんの多くは自分の住み慣れた地域で生活をし、医療を受けることを望んでいると思います。そのような患者さんの声を親身に受け止め、地域住民の方々の健康を守っていけるような医師になりたいです。

医師を目指す皆さんへメッセージ

医師は目指す価値がある職業だと思います。
高校生・医学生の皆さん、一緒に良い医師を目指していきましょう！



次回の坂坂の発行は8月の予定です。

坂坂で読んでみたい記事はございませんか？
医師やメディカルに聞いてみたいこと・病院のこと・勉強方法についてなど・・・
ぜひ、こちらまでご意見をお寄せください！

igakusei@miyagi-min.com



坂総合病院医学生だより

坂坂

〈発行〉
坂総合病院
医学生と共に歩む委員会
遠橋先・塩釜市錦町16-5
☎022-367-9007
2020年5月15日
No.87



坂総合病院HP

「医学生のひろば」より
過去の坂坂をご覧ください。



2020卒研修医11名、研修Start!

2020卒研修医の先生方が入職し、研修が始まりました！

それぞれの先生方より、医師を目指した理由、どんな医師になりたいか、
医師を目指す皆さんへのメッセージをいただきました！



◆初期研修ローテーション例

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
導入研修			消化器科 12週		外科 12週		呼吸器科 12週		小児科 8週		循環器科 12週		産婦人科 4週		救急科 8週		精神科 4週		選択科 16週		地域医療 12週					修了証授与
	通年	訪問診療	地域医療研修の一環として看護師と共に訪問診療を担う																							
	研修	当直	ウォークインで来院する患者さんへの診療を担う																							
	修	救急	救急当番で日中に救急車で搬入された患者さんへの診療を担う																							
	修	一般外来	ローテーション中の3ヶ月、一般外来診療を担う																							

山田 泰史(東北大学卒)

医師を目指した理由

私が医師を目指したきっかけは幼少期にさかのぼります。

当時私は将来への目標はなく、漠然とマンガ家や芸人といった芸で人を笑顔にして幸せに導けるような仕事に就きたいと思っていました。そのため特に勉強せず、芸磨きや人との交流にのみ時間を割いて漠然と生きていました。

しかし、そんな中で偶然にもテレビで国際医療の特集をみて、医療者がひたむきに病で苦しむ患者さんに関わっている姿が強く印象に残りました。人に笑顔を作るのは芸を見せるだけではなく、健康にさせることでも生み出せるのではないかと当時の私は考えたのです。そのため、心と体の学問である医学を修め、他者の幸福のために貢献できたらと思い、結果として医師を志しました。

どんな医師になりたいか

私は病を見るだけでなく、患者さんひとりひとりしっかり向き合い、しっかり対話と意見交換を行うことで患者さんと一歩一歩しっかりと健康という目標に歩んでいくというスタンスを目指していきたいです。

また、地域医療に取り組み、個人の治療を通してさらに地域全体の健康状態の向上に貢献したいと思えます。

その後は、幼少期からの夢である国際医療に貢献し、日本以上に医療の進んでいない地域で人々の力になっていくことを目指しています。

医師を目指す皆さんへメッセージ

目の前の勉強にしっかり取り組むことは非常に大切なことですが、それ以外にも様々なことに興味を持ち、様々な人と出会ってみることをお勧めします。

医師という仕事は、多くの人と接するため、そこでの経験が現場での大きな力になると私は考えています。

菅 遼和(弘前大学卒)

医師を目指した理由

テレビドラマなどを見てカッコいいなと思ったのが、主たる理由です。

(今考えると大変浅はかであるが...)

どんな医師になりたいか

少なくとも誠実ではありたいと思っています。

医師を目指す皆さんへメッセージ

私もですが、何はともかく目の前の事に一生懸命取り組んでいきましょう！

大衡 竜太(東北大学卒)

医師を目指した理由

もともと人の役に立つ仕事がしたいと思っていました。

高校生の時に親戚が入院し、その時に何もしてあげられなくて悔しかった経験があり医師を目指すに至りました。

どんな医師になりたいか

確かな知識・技術を持ち、その上で患者さんの声に耳を傾けて何に困っているのか、そして何を望んでいるのかをちゃんと聞ける医師を目指して日々精進していきたいと思っています。

医師を目指す皆さんへメッセージ

勉強も大事だとは思いますが、医学や受験勉強以外のものに触れたりしながら頑張ってください。モチベーションが下がった時は実習に行つて実際の医療の現場を見たり、働いている人の話を聞くのもいいと思います。

寺田 英知(東北大学卒)

医師を目指した理由

私が医学部を目指したのは、高校二年生のころです。正直に言うと、医師になりたいという志はあまり高くありませんでした。

医学部を受験したのも、成績がよかったから、担任に勧められたからといった理由からです。そのため、入学してから勉強することへのモチベーションも上がらず、進級に大変苦労しました。

そんな自分が変わったのは、民医連に出会ってからです。民医連で働く方々の姿勢や考え方に触れ、そして何より病院の周りに住む地域の方々と触れ合うことで、この人たちの力になりたい、力になれる医師になりたいと思うようになりました。

どんな医師になりたいか

私の理想の医師像は、患者さんの苦難に寄り添い、ともに立ち向かうことのできる医師です。

野田 武史(日本大学卒)

医師を目指した理由

私が中学生のころ、祖父と祖母が癌で亡くなりました。闘病生活の中で徐々にやせ細り、辛そうにしている姿を実際に見て、病気で苦しむ人のために自分自身も何か力になりたいと思い医師を志しました。

どんな医師になりたいか

患者さんの不安を少しでも多く取り除くことのできる医師です。患者さんが病院に来るときには、自分はどうな病気なのか、入院はどれくらいかかるのか、どんな辛い検査や治療が待ち受けているのかといった様々な不安を持って来院すると思いますが、そういった各々の患者さんが抱える不安に寄り添い、共感し、少しでも安心してもらえる医師になりたいと思っています。

医師を目指す皆さんへメッセージ

学校生活やアルバイトなどで大変だと思いますが、乗り越えて是非、坂総合病院で一緒に働きましょう。

銅持 洋美 (東京女子医科大学卒)

医師を目指した理由

母の実家がある岩手県の医師不足の実態がある日祖母から聞く機会があり、関東との差に大きな衝撃を受けたのがきっかけです。それから自らの手で東北の医師不足を少しでも変えることが出来たらと思い医師を目指すことにしました。

どんな医師になりたいか

患者さんのことを家族のように考え、疾患だけでなく患者さん自身も診ることで心身ともに元気になることのできる医師になりたいです。

医師を目指す皆さんへメッセージ

夢は決して諦めないでください。そして自分を支えてくれる周りへの感謝をいつも忘れずに頑張ってください！

生田 崇浩(東邦大学卒)

医師を目指した理由

小さいころから災害があるとその話題を身近で聞く環境にあったので、災害や事故などが起こった際に困っている人を最前線で救命できるようにになりたいと思い医師を目指しました。

どんな医師になりたいか

技術と知識の向上のために継続的に努力して、学んだことをしっかりと患者さんに還元し、患者さんに寄り添った医療をできる医師になりたいと考えています。

また、将来自分が専門としたい領域だけでなく、それ以外の幅広い領域でも診られるような医師になりたいとも考えています。

医師を目指す皆さんへメッセージ

勉強することも大事だとは思いますが、部活だったり趣味だったり是非積極的にいろいろなことにチャレンジしてみてください。

蒔田 真基(東北大学卒)

医師を目指した理由

私は今35歳で初期研修医になります。医学部に合格する前は筑波大学の数学科に所属していました。数学科を選んだ理由は高校数学が得意で楽しかったからなのですが、大学の数学は難解でついていけず挫折して、大学に通わずにゲームにばかり行ってしまい中退しました。そのあと実家に戻って引きこもり、ネットサーフィン、ネットゲーム、ゲーセン、競艇、パチンコ、パチスロなどをしていました。そうしているうちに医師である父が亡くなり自分が喪主を務めることとなりました。父の葬式にはたくさんの方が来てくださり、父に命を救ってもらった話や、父は常に思いやりと優しさを持って患者さんと接していた話などをそれぞれのエピソードを交えながらしてもらいました。葬式の最中にはしっかり葬式を終えないといけないという使命感で張り詰めていたので感情が出てこなかったのですが、葬式が終わり一段落すると涙が止まらなくなり、今までの生活を反省して自分も父のような医師になりたいと思うようになったのが医師を目指した理由です。

どんな医師になりたいか

常に医学知識をアップデートするために勉強を怠らず、なおかつ患者さんに精神的にも寄り添える医師になりたいです。

1年目研修医の導入研修の様子を紹介します！



1年目研修医が入職すると、病棟配属の前に約2週間の導入研修を行います。2年間を共に過ごす同期同士のつながりを強める特別な期間。指導医や先輩からは、病棟配属後に必要な基礎的知識や手技とともに、コンサルトのノウハウなどを学び、コメディカルからはチーム医療の大切さとそれぞれの役割を学びます。

◆19卒ワークショップ

2年目医師によるローテート科での業務内容や、何をすべきか勉強などを含めた



◆グループワーク

初期研修2年間でどのような医師になりたいのか、皆で話し合いました。導入研修もある程度経過した時期に行ったので、研修医同士も打ち解けて、和気あいあいとした雰囲気の中で行われました。

◆シミュレーター指導

胸腔穿刺と腰椎穿刺のシミュレーターを用いた指導を先輩医師が行いました。

実際に行う時のコツや注意点などを丁寧に教えてもらい、充実した学びとな



◆救急実習

シミュレーターを用いて気管挿管の練習をしました。また、点滴などの輸血方法を学びました。

◆胸部XPの読み方

呼吸器科の先生によるレントゲン画像の読影を学びました。指名された研修医は緊張しながらも答えていきまし



◆研修プログラム&接遇講義

当院の研修プログラム、研修修了要件の説明、社会人としての接遇マナーについて学びました。笑顔の練習では、みんなニコニコとしており、楽しそうな様子が伝わってきました。

◆食養講義

実際に患者さんへ提供している病院食を試食しました。なかなか普段とは違う見た目に戸惑いながらも、思っていたよりも美味しい、やっぱり普段の食事の方が良いなどの意見で盛り上がりました。



◆電子カルテ講義

2年目医師による電子カルテの使い方の講義を行いました。多種多様な機能があり、先輩医師が丁寧に教える姿は頼もしく、一生懸命メモを取りながら取り組みました。

2020年春 病院見学者感想文

今年の春休みの期間（2～4月）は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、縮小・限定しての見学受入れとなってしまいましたが、約20名の学生さんが病院実習に来ていただきました。

感想の一部を紹介します。（学年は、2020年3月時点での学年です。）

救急科 ・1人の患者さんの救急搬送のファーストタッチから、退院までの流れを丁寧に説明していただき、対応を学ぶことができました。具体的なオーダー項目も教えていただくことが出来ました。（山形大学5年生）



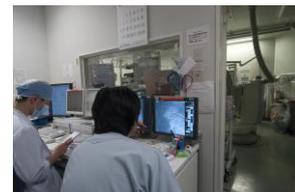
・半日で4台の救急患者さんの見学をさせていただきました。呼吸困難の鑑別や、認知症の患者さんの対応など、学ぶことが多かったです。動脈血の採血もさせていただき、とても良い経験になりました。（秋田大学5年生）

総合診療科 ・3年目の先生が診た症例に対し、先輩医師がフィードバックを行っている様子を伺い、後期研修がどのように行われているのか、その雰囲気を感じる事が出来ました。（秋田大学5年生）



在宅科 ・普段、あまり診ることのない在宅での医療や、その後のフォローを見学することが出来て、良い経験になりました。また、今後の勉強法や、医師としての心得も聞き、とても為になりました。（日本大学5年生）

産婦人科 ・妊婦健診で診る項目のポイントをおさらいすることが出来ました。患者背景を診ることの大切さを学ぶことが出来ました。（聖マリアンナ医科大学5年生）



消化器科

・消化器疾患の画像の読み方、疾患の診断から治療まで幅広く教えていただきました。病棟回診も診ることが出来、実際の臨床もよく分かりました。（山形大学5年生）

当直 ・夜間救急の体制や、研修医が一人立ちするまでの過程を教えていただき参考になりました。（金沢大学5年生）

外来 ・大学の講義で学習した内容が出てきました。今後、見学する際には、理解できる範囲を増やせるよう学習していきたいと思いました。（東北大2年生）

全体 ・どの診療科の先生も優しく、高度な専門知識に基づき、診療に臨んでおり、地域医療を担う病院の一医師として働いている姿を拝見することが出来ました。研修医の先生も、親身に研修内容について教えて下さいました。（山形大学5年生）

・研修医、上級医の先生方、皆話しやすく、よく教えて下さり、居心地の良い実習でした。また、研修医の責任量、手技の量が多く、内容の濃いもので良い研修だと感じました。（日本大学5年生）

・坂総合病院の研修プログラムは、初期研修医が成長するために、病院全体がサポートしてくれている印象を持ちました。（秋田大学5年生）

病院見学のお問い合わせをお待ちしております！

詳しくはQRコード又はHP「[医学生 研修医のひろば](#)」で検索。

